

グランプリ「被爆ポンプ」 視覚造形4年 宮原萌子

水を...

八月六日、広島爆撃の中
私は水を用せなくなりました。
水は生命の源であり、平和の象徴です。
被爆した瞬間、水は私たちの唯一の救いとなりました。



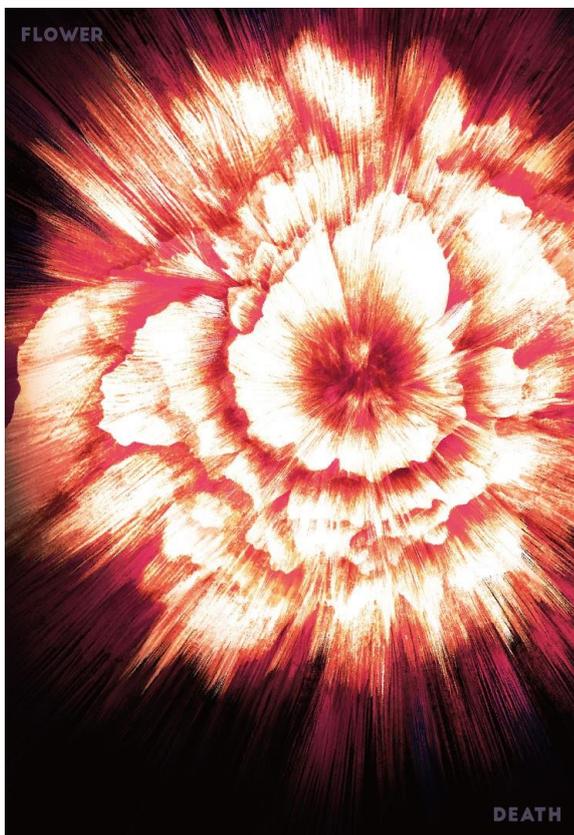
広島駅周辺には、被爆したと伝えられている手押しポンプが四基ある。最近では駅前の開発工事により、撤去されそうになっていたが、一人の平和祈念資料館のボランティアの方がポンプにメッセージカードをつけ、撤去を逃れることができた。

私は、偶然見つけたポンプについて調べていくうちに、被爆した時にどんな様子だったのかが気になった。おそらく、多くの人が水を求めポンプの周りに集まってきたに違いない。しかし、爆風や熱線の影響によってポンプは壊れてしまい、水を出すことができなかったのではないかと私は想像した。

そのため、コピーは被爆した時の状況を感じさせるようなものにした。ビジュアルは、実際のポンプの雰囲気を感じてもらうために実寸大の写真で表現した。被爆当時の部分をモノクロにし、ポンプが持つ歴史の重みを感じられるようにした。

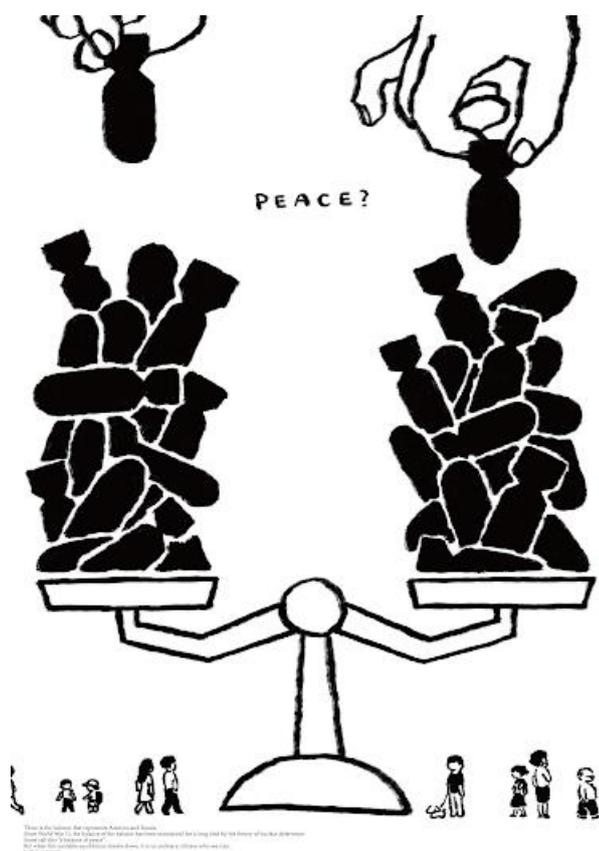
このポスターを通じて被爆ポンプを知ってもらい、これからも大切に保存し続けてもらいたい。

準グランプリ「Flower or Death」視覚造形3年 冨田佳央



ふと見ていたテレビ番組で花火を作っており、その時に花火の原理と爆弾の原理が似通っていることを知りました。戦争とは切っては切れない存在である爆弾とみんなを喜ばせる綺麗な花火が紙一重の存在である。それを選択しているのは我々であり、選べるのだから人を傷つける爆弾ではなく花火として使ってほしいという願いで制作しました。ポスター全体のビジュアルは爆発と花が同時に感じられるように制作しています。打ち上げる花火、落ちる爆弾という意味からそれぞれ上下に英語で「Flower」、「Death」を上下に置きました。

HADC 賞「PEACE?」 視覚造形 4年 副島沙奈



核兵器の抑止力をテーマ制作しました。今の世界の核兵器の均衡は2つの国で保たれていて、2つの天秤はアメリカとロシアを表しています。核抑止論という理論があるのですが、核兵器の保有はその法外な破壊力のために、かえって戦争を抑止するという考えです。

核兵器を使おうと思うと、自国も相手からの核兵器での破壊的な被害を覚悟せねばならず、結局核兵器の使用を思いとどまるといふ理論です。アメリカとロシアは常に核兵器の数でマウントをとりあい、片方が核実験をすれば、片方も行うということを繰り返しています。

この理論によって平和が保たれている、という人もいますが、これからもこんなことを繰り返し続けると、地球上に存在する核兵器は増え続けるばかりで、この不安定な均衡が崩れたときに、一番に被害に遭うのは私たち一般市民であるということを、本当に平和な理論だといえるのか。それを改めて問うて欲しいと考えて制作しました。